

大阪府献血推進審議会適正使用対策部会

日 時：平成27年12月11日（金）
午後2時30分から午後4時
場 所：大阪赤十字会館402会議室

次 第

1. 委員の紹介

2. 議 題

(1) 平成27年度の献血状況と需給状況について

(2) 第16回輸血療法委員長会議について

(3) 今後の大阪府献血推進審議会適正使用対策部会について

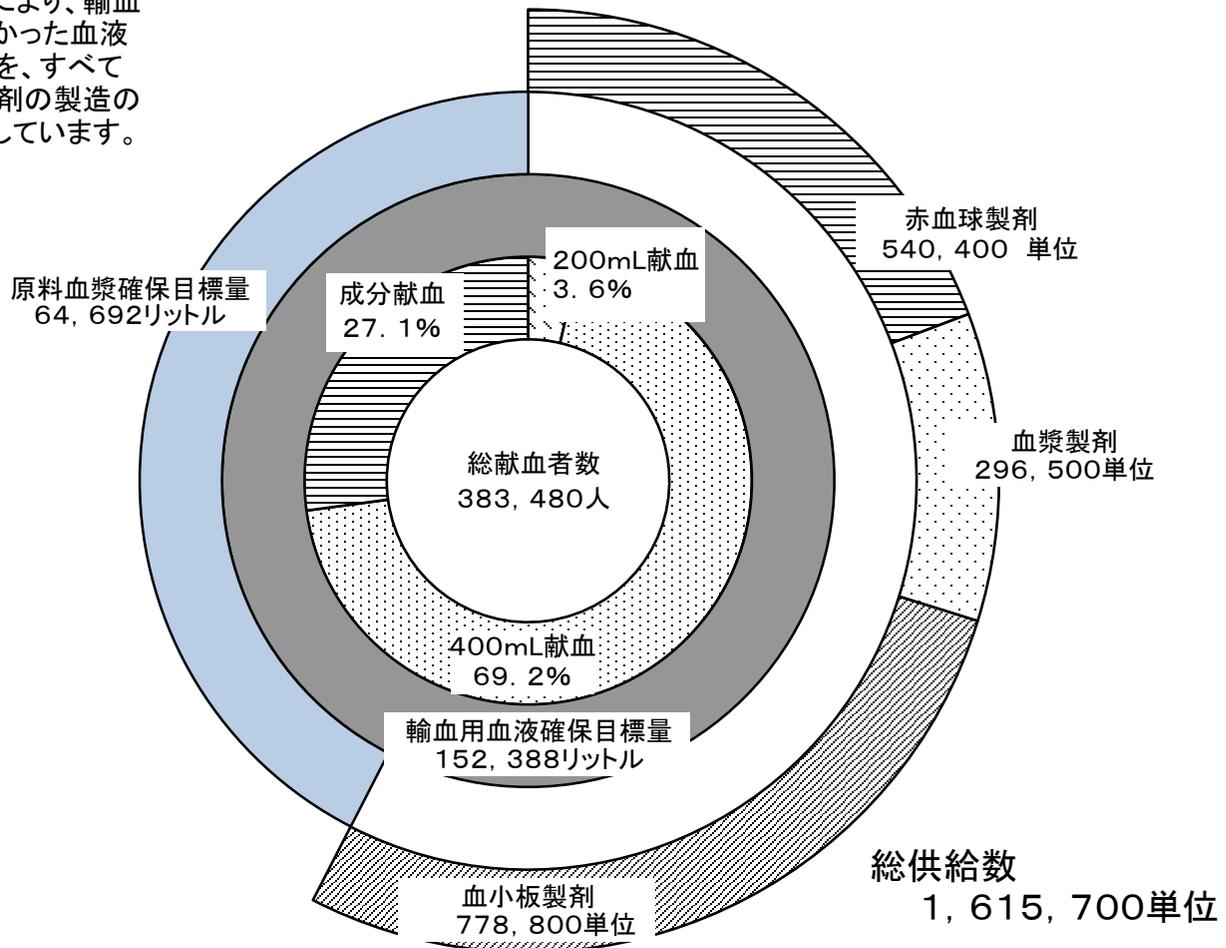
平成27年度 献血目標

献血していただいた血液は、医療機関に送られ、がん、血液や造血器の病気、各種感染症、やけど、交通事故などの患者さんの治療に幅広く使用されます。

・血漿分画製剤に必要な血漿量は、全国で91万リットル(平成27年度)です。

・血液センターでは、医療機関へ供給されず、期限切れなどにより、輸血に使われなかった血液の血漿成分を、すべて血漿分画製剤の製造のために使用しています。

*より一層の安全性向上のため、400mL献血の献血目標割合を、95.0%(全血献血中構成比)としました。

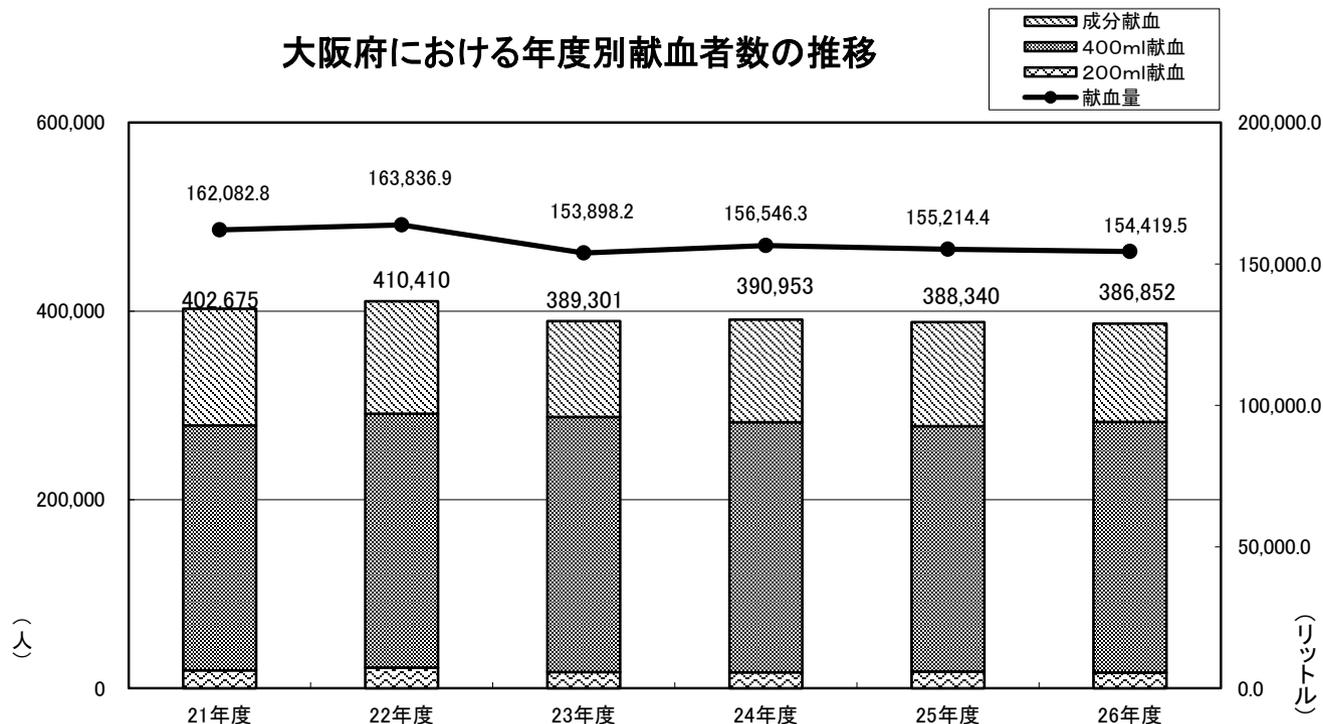


・医療機関では患者さんの病気や症状によりそれぞれ血液製剤が輸血されます。

・1単位は、約200mLの血液から得られる各製剤の量です。

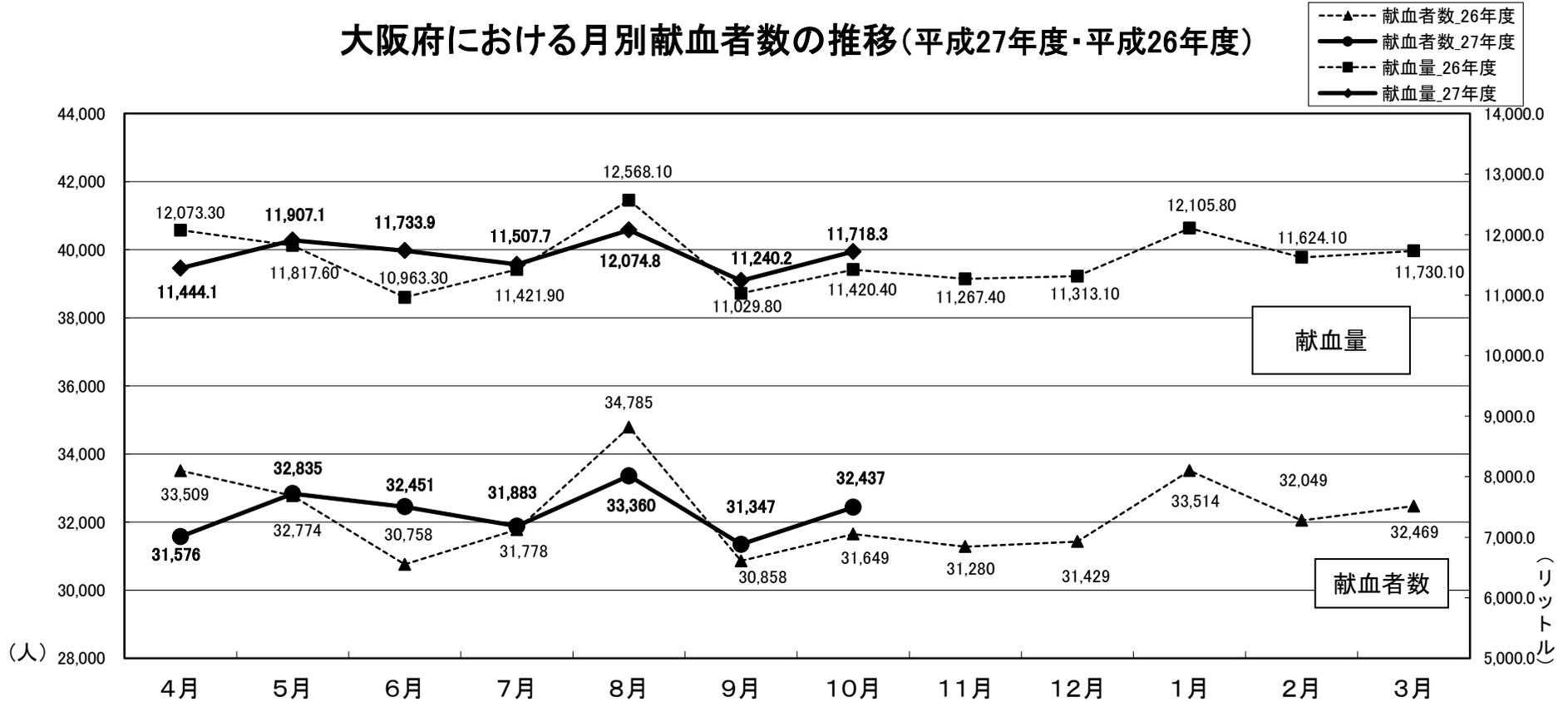
平成27年度献血目標							
		献血者数(人)	構成比(%)	献血量(L)	採血場所別献血者目標(人)		
					血液センター	献血ルーム	移動採血車(オープン献血含む)
全血献血	200mL	13,980	3.6%	2,796	211	7,051	6,718
	400mL	265,480	69.2%	106,192	6,865	112,899	145,716
成分献血	血漿	35,620	27.1%	16,041	1,995	33,625	0
	血小板	68,400		27,359	6,388	62,012	0
合計		383,480		152,388	15,459	215,587	152,434

大阪府における年度別献血者数の推移



年度	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
200mL献血	18,991	4.7%	21,829	5.3%	17,093	4.4%	17,072	4.4%	17,681	4.6%	16,556	4.3%
400mL献血	259,817	64.5%	269,222	65.6%	270,673	69.5%	265,148	67.8%	260,339	67.0%	265,979	68.8%
成分献血	123,867	30.8%	119,359	29.1%	101,535	26.1%	108,733	27.8%	110,320	28.4%	104,317	27.0%
合計	402,675	100.0%	410,410	100.0%	389,301	100.0%	390,953	100.0%	388,340	100.0%	386,852	100.0%
全血に占める400比	93.2 %		92.5 %		94.1 %		94.0 %		93.6 %		94.1 %	
献血目標	379,040 人		385,480 人		402,925 人		411,777 人		404,006 人		398,299 人	

大阪府における月別献血者数の推移(平成27年度・平成26年度)

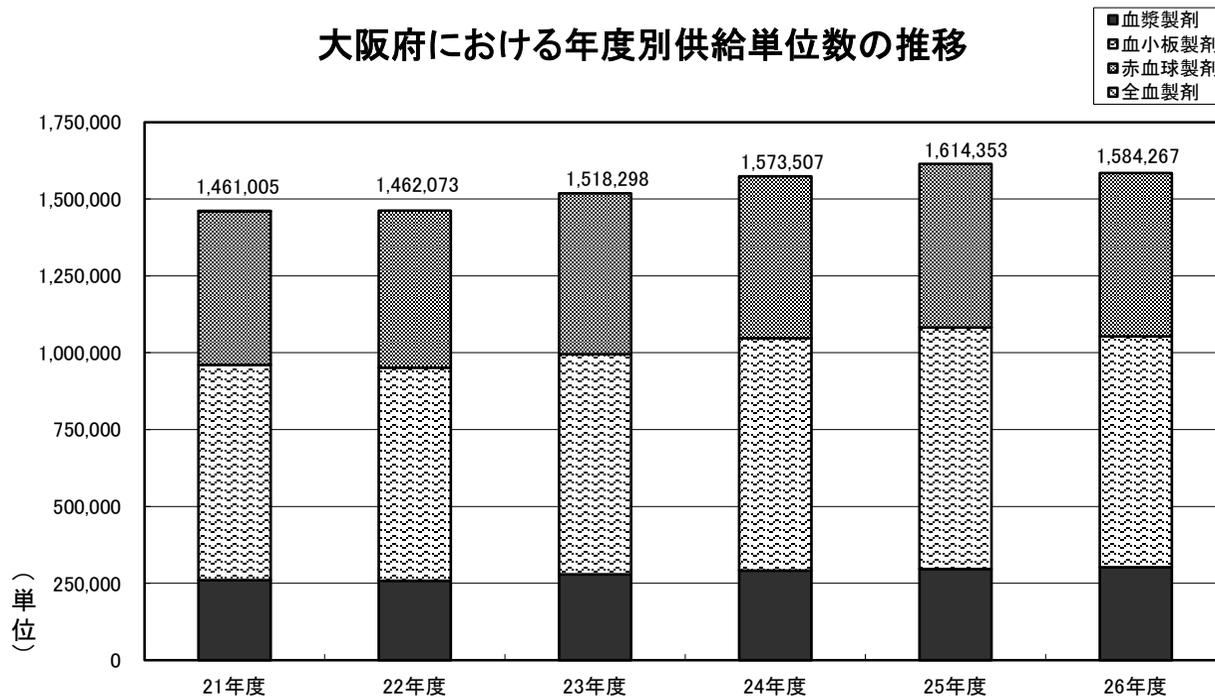


大阪府 月別献血者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
200mL献血	1,219 1,604	1,169 1,345	1,262 1,370	1,005 1,130	1,074 1,280	1,329 1,513	1,108 1,356					
400mL献血	21,973 23,212	22,387 22,255	22,063 20,337	21,365 21,747	22,382 24,053	20,658 20,545	21,843 21,776					
血小板献血	5,248 5,623	5,559 5,691	5,566 5,822	5,814 5,844	5,905 5,985	5,774 5,568	5,816 5,347					
血漿献血	3,136 3,070	3,720 3,483	3,560 3,229	3,699 3,057	3,999 3,467	3,586 3,232	3,670 3,170					
合計	31,576 33,509	32,835 32,774	32,451 30,758	31,883 31,778	33,360 34,785	31,347 30,858	32,437 31,649					

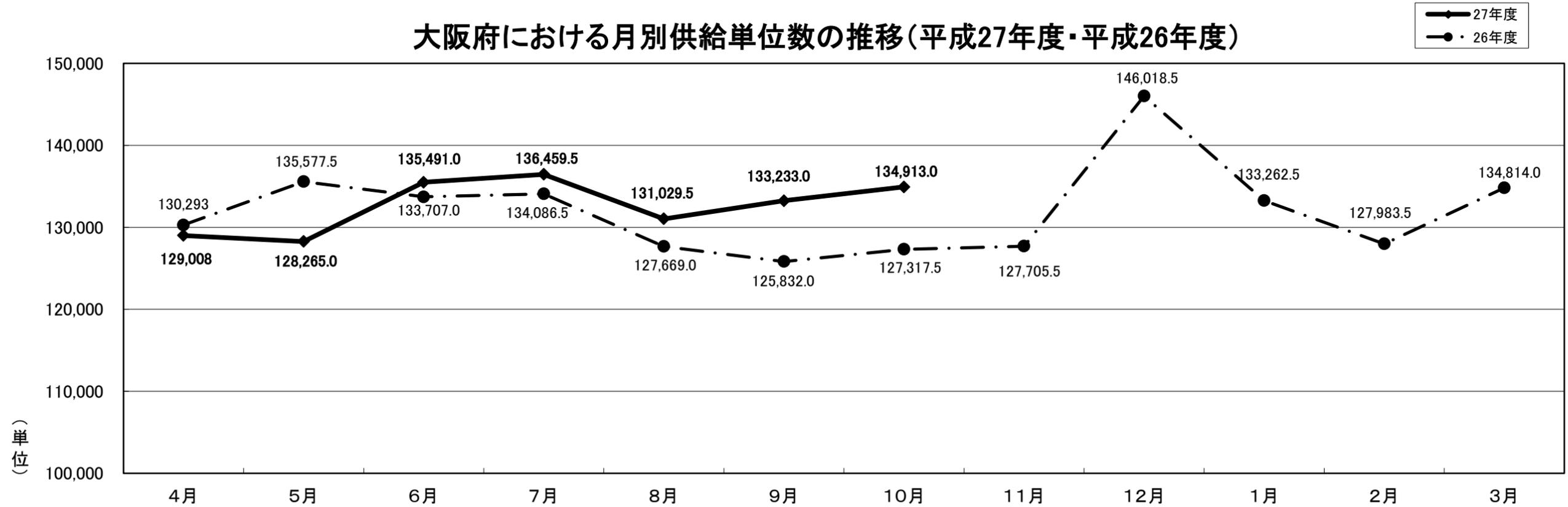
上段は平成27年度
下段は平成26年度

大阪府における年度別供給単位数の推移



年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
全血製剤	22	0	0	0	0	0
赤血球製剤	500,521	510,296	522,611	525,822	532,088	531,242
血小板製剤	700,311	693,497	716,413	756,157	785,322	750,254
血漿製剤	260,151	258,280	279,274	291,528	296,943	302,771
合計	1,461,005	1,462,073	1,518,298	1,573,507	1,614,353	1,584,267

大阪府における月別供給単位数の推移(平成27年度・平成26年度)

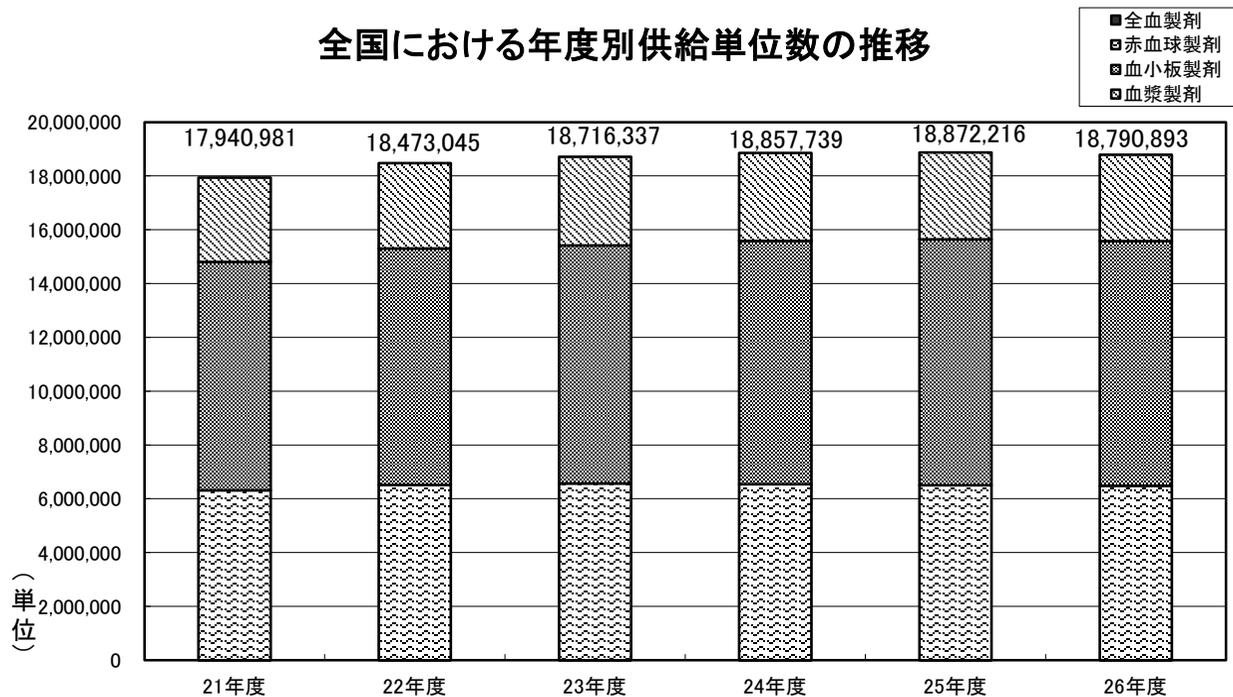


大阪府 月別供給単位数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
赤血球	44,685.0	41,853.0	44,909.0	45,178.0	43,600.0	43,593.0	44,367.0					
	43,966.0	45,156.0	44,336.0	44,642.0	41,612.0	42,810.0	44,299.0	42,716.0	47,642.0	45,534.0	42,829.0	45,700.0
血小板	61,035.0	62,920.0	65,300.0	66,185.0	63,289.0	65,673.0	65,210.0					
	61,860.0	64,352.0	64,237.0	64,780.0	61,120.0	60,505.0	61,210.0	59,215.0	68,725.0	61,555.0	60,090.0	62,605.0
血漿	23,288.0	23,492.0	25,282.0	25,096.5	24,140.5	23,967.0	25,336.0					
	24,467.0	26,069.5	25,134.0	24,664.5	24,937.0	22,517.0	21,808.5	25,774.5	29,651.5	26,173.5	25,064.5	26,509.0
合計	129,008.0	128,265.0	135,491.0	136,459.5	131,029.5	133,233.0	134,913.0					
	130,293.0	135,577.5	133,707.0	134,086.5	127,669.0	125,832.0	127,317.5	127,705.5	146,018.5	133,262.5	127,983.5	134,814.0

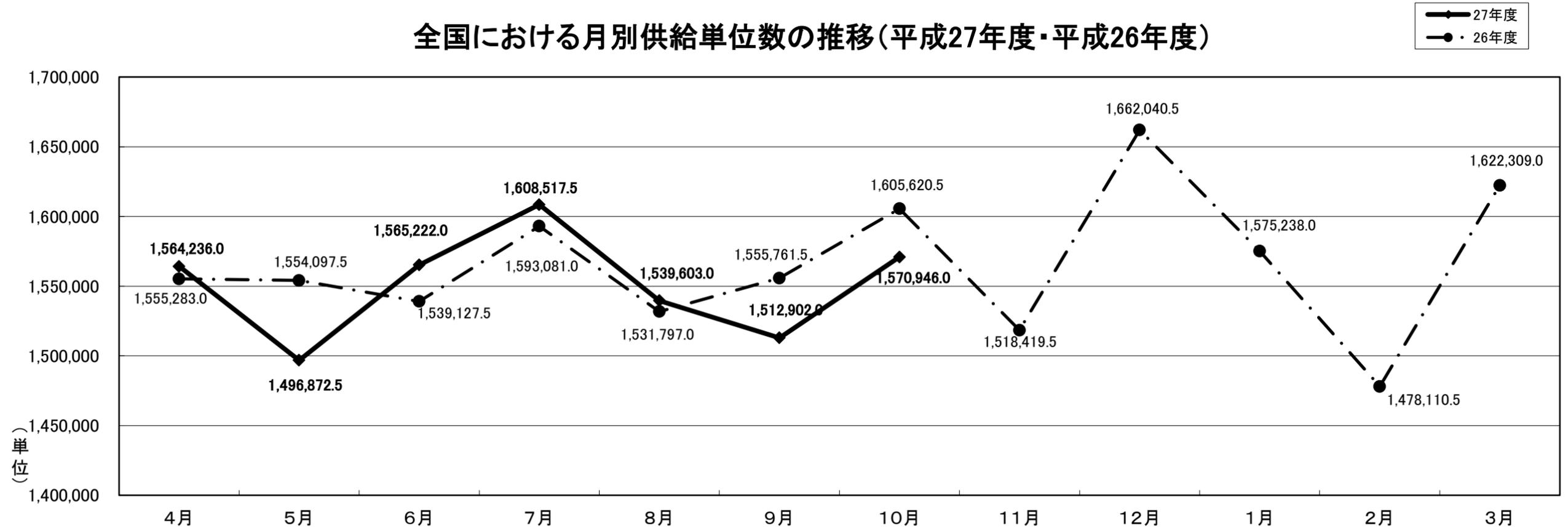
上段は平成27年度
下段は平成26年度

全国における年度別供給単位数の推移



年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
全血製剤	1,079	897	757	694	919	208
赤血球製剤	6,319,640	6,513,480	6,573,768	6,539,271	6,505,349	6,486,093
血小板製剤	8,483,614	8,786,564	8,842,777	9,050,568	9,134,883	9,090,115
血漿製剤	3,136,648	3,172,104	3,299,035	3,267,206	3,231,065	3,214,477
合計	17,940,981	18,473,045	18,716,337	18,857,739	18,872,216	18,790,893

全国における月別供給単位数の推移(平成27年度・平成26年度)



全国 月別供給単位数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血	10.0	18.0	4.0	20.0	10.0	10.0	6.0					
	31.0	7.0	25.0	13.0	18.0	16.0	22.0	20.0	29.0	1.0	18.0	8.0
赤血球	547,943.0	512,043.0	539,742.0	545,013.0	522,177.0	517,732.0	543,587.0					
	543,648.0	540,138.0	527,788.0	547,612.0	516,550.0	532,040.0	561,780.0	517,895.0	577,697.0	551,937.0	510,703.0	558,305.0
血小板	744,696.0	733,745.0	758,526.0	791,344.0	760,879.0	749,773.0	759,320.0					
	749,726.0	754,299.0	747,356.0	775,607.0	755,827.0	758,492.0	775,314.0	732,616.0	795,718.0	746,197.0	715,241.0	783,712.0
血漿	271,587.0	251,066.5	266,950.0	272,140.5	256,537.0	245,387.0	268,033.0					
	261,878.0	259,653.5	263,958.5	269,849.0	259,402.0	265,213.5	268,504.5	267,888.5	288,596.5	277,103.0	252,148.5	280,284.0
合計	1,564,236.0	1,496,872.5	1,565,222.0	1,608,517.5	1,539,603.0	1,512,902.0	1,570,946.0					
	1,555,283.0	1,554,097.5	1,539,127.5	1,593,081.0	1,531,797.0	1,555,761.5	1,605,620.5	1,518,419.5	1,662,040.5	1,575,238.0	1,478,110.5	1,622,309.0

上段は平成27年度
下段は平成26年度

第16回 輸血療法委員長会議 プログラム (案)

主催 大阪府
大阪府赤十字血液センター

後援 一般社団法人 大阪府医師会
一般社団法人 大阪府病院協会
一般社団法人 大阪府私立病院協会

日 時 平成28年3月11日 午後2時～4時

場 所 大阪赤十字会館
大阪市中央区大手前2丁目1番7号

講演等

座長 一般社団法人 大阪府医師会 副会長 中尾 正俊

1 輸血療法にかかる診療報酬の査定について (30分+質疑5分)

近畿大学医学部 血液・膠原病内科 教授 松村 到

2 適正使用 (血液製剤の使用指針等) について (30分+質疑5分)

慶応義塾大学医学部輸血・細胞療法センター 教授 半田 誠

3 輸血前後の感染症検査について (30分+質疑5分)

愛染橋病院 麻酔科 福光 一夫

輸血療法委員長会議歴代内容

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
	平成12年11月17日	平成13年11月16日	平成14年11月1日	平成15年11月1日	平成16年11月15日	平成17年10月28日
開催形式	講演	講演・シンポジウム	講演	見学・講演	講演	講演
内容	講話:血液事業の現況 矢内純吉(大阪府赤十字血液センター所長)	講演:「診療報酬明細書より見た血液製剤の使用状況」 永原 暹(大阪府社会保険診療報酬支払基金 専任審査員)	講演Ⅰ「輸血療法と血液管理」 通堂 満(大阪赤十字病院第三内科部長)	見学:日本赤十字社血液管理センター(NAT検査、福知山市)の見学	講演Ⅰ「供血者からの遡及調査結果について」、「輸血用血液等の遡及調査に関するガイドラインについて」 谷 慶彦(大阪府赤十字血液センター副所長)	講演Ⅰ「国における血液製剤の適正使用推進について」 中山 鋼(厚生労働省医薬食品局血液対策課 課長補佐)
	講演「血液製剤の適正使用」 高橋孝喜(虎の門病院輸血部長)	シンポジウム:メインテーマ「輸血療法委員会の設置とその目指すもの」 二永英男(大阪脳神経外科病院副院長) 美馬 昂(きっこう会多根総合病院副院長) 宮田茂樹(国立循環器病センター輸血管理室医長) 岸本裕司(関西医科大学附属病院輸血部助教授)	講演Ⅱ「血液センターのvirusスクリーニングの現状」 柴田 弘俊(大阪府北大阪赤十字血液センター所長)	講演Ⅰ「薬事法及び採血及び供血あつせん業取締法の改正について」 泉 博子(大阪府健康福祉部薬務課)	講演Ⅱ「特定生物由来製品の記録について」、「生物由来製品感染等被害救済制度について」 泉 博子(大阪府健康福祉部薬務課総括主査)	講演Ⅱ「occult HBV infectionの病態」 結城 暢一(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 消化器科医長)
			講演Ⅲ「C型肝炎の現状と治療」 益澤 学(大阪警察病院副院長)	講演Ⅱ「血液製剤の遡及調査について」 柴田 弘俊(大阪府赤十字血液センター所長)	事務連絡 第3回「輸血療法にかかるとアンケート調査結果報告について」	(伝達事項)「輸血時のウイルス検査について」 永原 暹(大阪府社会保険診療報酬支払基金 専任審査員)
			第2回輸血療法にかかるとアンケート集計結果			
参加施設数	78施設	80施設	69施設	59施設	68施設	75施設
参加者人数	87名	97名	76名	59名	84名	98名
医師	63名	50名	47名	37名	36名	53名
薬剤師	8名	15名	4名	5名	11名	8名
臨床検査技師	16名	31名	25名	16名	35名	33名
その他	0名	1名	0名	1名	2名	4名

輸血療法委員長会議歴代内容

	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
	平成18年11月2日	平成19年10月31日	平成20年11月14日	平成21年12月15日	平成22年11月5日	平成24年3月22日
開催形式	講演	講演	講演	講演	講演	講演+見学会
内容	講演Ⅰ「輸血に関する保険診療上の問題点」ー適正輸血の推進を目指してー 脇本 信博(帝京大学医学部整形外科講師)	講演Ⅰ「血液製剤の国内自給と血漿分画製剤の適正使用について」 武末 文男(厚生労働省医薬食品局血液対策課 課長補佐)	講演Ⅰ「輸血におけるリスクマネジメントと副作用収集システムの確立」 河野 武弘(大阪医科大学輸血室長)	講演Ⅰ「日赤の安全対策の現状と新型インフルエンザ」 百瀬 俊也(日本赤十字社血液事業本部 安全管理課長)	講演Ⅰ「血液行政における最近のトピックス」 難波江 功二(厚生労働省医薬食品局血液対策課 課長補佐)	講演Ⅰ「院内で取り組む安全な輸血療法について」 倉田 義之(四天王寺大学(前大阪大学医学部附属病院輸血部長)、日本輸血・細胞治療学会I&A委員会)
	講演Ⅱ「健康被害救済制度について」 宮崎 生子(独立行政法人医薬品医療機器総合機構健康被害救済部調査課長)	講演Ⅱ「血液事業の現状について」 柴田 弘俊(大阪府赤十字血液センター所長)	講演Ⅱ「血液事業の業務集約化の現状について」 柴田 弘俊(大阪府赤十字血液センター所長)	講演Ⅱ「献血の現状と新型インフルエンザ対策」	講演Ⅱ「XMRVの最近の話題」 古田 里佳(大阪府赤十字血液センター研究部 研究二課長)	講演Ⅱ「わが国の血液事業について」 新村 浩幸(厚生労働省医薬食品局血液対策課 需給専門官)
	事務連絡 第4回「輸血療法にかかるアンケート調査結果報告について」		事務連絡 第5回「輸血療法にかかるアンケート調査結果報告について」	菅原 拓男(日本赤十字社血液事業本部 献血推進課長)	情報提供「呼吸困難症例(TRALIとTACO)について」 谷 慶彦(大阪府南大阪赤十字血液センター 所長)	見学会 日本赤十字社 近畿ブロック血液センター
参加施設数	75施設	72施設	59施設	64施設	59施設	67施設
参加者人数	85名	82名	66名	72名	78名	85名
医師	41名	33名	26名	29名	39名	26名
薬剤師	5名	12名	7名	8名	3名	17名
臨床検査技師	35名	37名	32名	35名	35名	34名
その他	4名	0名	1名	0名	1名	8名

輸血療法委員長会議歴代内容

	第13回	第14回	第15回
	平成25年3月6日	平成26年3月3日	平成27年3月18日
開催形式	講演	講演	講演
内容	講演Ⅰ「医療機関における輸血管理料への取り組みについて」 阪本 親彦((医)生登会 寺元記念病院 血液内科 内科医長)	Ⅰ「平成25年度輸血療法に係るアンケート調査結果について」 大阪府健康医療部薬務課	Ⅰ 血液製剤の廃棄率減少の取り組みについて 社会医療法人 生長会 府中病院 臨床検査室 主任 三平 りさ
	講演Ⅱ「平成24年度診療報酬改定～血液事業の方向性と輸血関連の改定事項～」 笠松 淳也(厚生労働省医薬食品局血液対策課 課長補佐)	Ⅱ「輸血後感染症対策について」 田守 昭博(大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学・輸血部 准教授)	Ⅱ 輸血療法とHIVについて 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター センター長 白阪 琢磨
	講演Ⅲ「血液事業の現状について」 大阪府赤十字血液センター 所長 神前昌敏	Ⅲ「生物由来製品感染等被害救済制度について」 大島 雅和((独)医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部 企画管理課 課長代理)	Ⅲ 将来の血液製剤について (iPS細胞の可能性等) 京都大学iPS細胞研究所 基盤技術研究部門 教授 木村 貴文
		Ⅳ「移植医療と血液需要の動向」 河 敬世(日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長)	事務連絡 大阪府赤十字血液センター 所長 神前 昌敏
参加施設数	87施設	74施設	85施設
参加者人数	100名	90名	116名
----- 医師 -----	30名	31名	27名
----- 薬剤師 -----	12名	11名	17名
----- 臨床検査技師 -----	55名	46名	63名
----- その他 -----	3名	2名	9名

今後の大阪府献血推進審議会適正使用対策部会について

(背景)

日本のアルブミン製剤使用量
世界生産量の1/3(昭和60年頃)



旧厚生省 使用基準/指針を作成周知



使用量減少

しかし、使用量は減少するが、
・国際的に、使用量が高い水準で
・国内使用量に都道府県格差がある

適正使用の更なる推進

(厚生労働省の取組み)

1. 血液法による適正使用の推進
⇒医療関係者への責務を追加
2. 各種指針の策定や改訂
・血液製剤の使用指針等
3. 委員会の設置を推進
医療機関:輸血療法委員会
都道府県:合同輸血療法委員会*

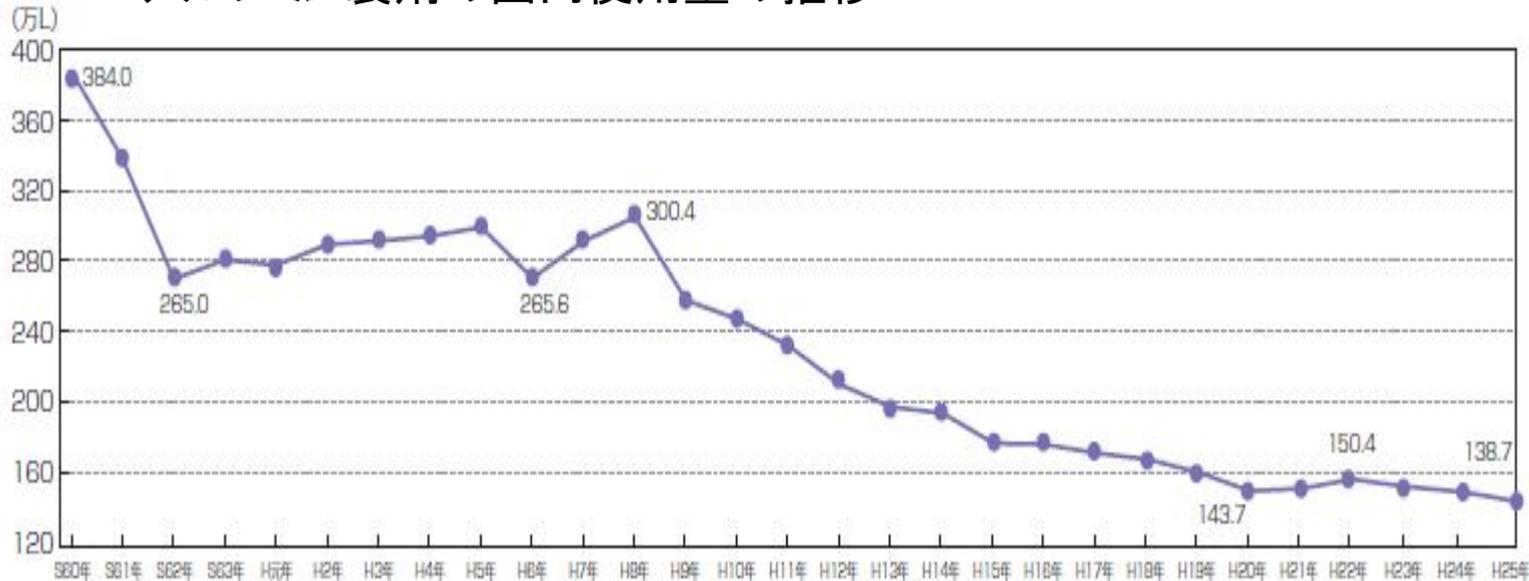
*大阪府における現在の適正使用対策部会に該当

(大阪府の取組み)

- ・平成12年度
 - 血液対策懇談会設置
輸血療法に係る調査の検討・実施
(2~3年毎にアンケート調査実施*)
 - 輸血療法委員長会議の開催
・輸血療法委員会の設置推進
・指針の普及
- ・平成24年度
適正使用対策部会設置
(血液対策懇談会から名称変更)

*アンケート調査
府内医療機関の輸血療法の現状や課題を把握するため実施
⇒集計結果は大阪府HPで公表
(同規模の医療機関での参考に)

アルブミン製剤の国内使用量の推移



(現状)

・過去の調査で、調査対象病院においては、現在、輸血療法委員会が設置され、各種指針等が認知されている事が分かった。

→当初の目的は達成

・アルブミン製剤の使用量が減少し、都道府県別使用量においても、近年、大阪府の使用量に大きな変化がない。

→アンケート調査及び適正使用部会により十分な効果が得られた。



効果が認められたことから、これまでのアンケート調査は終了。

今後の部会の進め方についてご意見をお願いいたします。